

授業改善プラン

地域名	南房総教育事務所	学校名	市原市立千種中学校
-----	----------	-----	-----------

1. 課題（全国学力・学習状況調査結果から）

○学力を支える「言葉」の理解力や基礎的な計算力が十分ではない。授業に参加していても理解できず、学習に対する意欲を持ってない生徒がいる。全国学力・学習状況調査では、特に数学では反比例についてグラフと表を関連付ける問題に課題がある。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

○各単元の学習内容を振り返ることで基礎的・基本的な知識・技能が定着するであろう。全教科で振り返りを意識し、学習内容の要点を記述させたり、学習内容を説明させたりする場面を設定することで学びの自覚化を促すことができるだろう。

3. 具体的な実践

(1) 全教科での取組

ア 定期的に教科部会を開催し、「振り返り」の検討、実践をしている。さらに全職員で実践内容を共有した。

イ 教育事務所の指導主事を招聘し、「振り返りの意義と実際」という演題で研修会を実施した。

(2) 数学科の取組

ア 過去の全国学力・学習状況調査や入試問題を参考に文章読解と振り返りの活用を目的とした授業研究を実施した。

イ 毎時間授業の終わりに「自己評価カード」を活用し、「わかったできた」ではなく、自分の言葉で「何がわかったか」「どんなことができたのか」を記入させている。

4. 成果

○数学科やいくつかの教科で自己評価カードを活用したところ、より具体的に自分の言葉で書けるようになってきた。

○振り返りの場面が、生徒同士の認め合う場面にもなってきた。

◆担当指導主事から（南房総教育事務所 指導主事 榎本 正信）

○導入や見通しを持たせる場面で既習事項の「振り返り」や授業の終末での「振り返り」、単元毎や定期テスト後に自己評価する「振り返り」などを行い、「何がわかったか」「何がわからないのか」「何ができるようになったか」について、生徒が自ら考え主体的に学習に取り組むような授業改善が進められている。このことはメタ認知能力の向上にもつながると考える。数学科を中心に、全教科の特性に合う振り返りの場面や方法も検討されており、更なる学力向上につながるのではないだろうか。